



第...

夜をねがうあけのち...

山寺ふありん

はうわんてい裁り...

ひやおんとあんな...

ゆいよとさひひが...

しあつとねいひひ...

しあつとねいひひ...

...

苑の都とたり出さくわら
しほはれはたのあつ川お
もすささいけいせいのさ
としそいひさくさあのかさ
のわさかすもざれもあま
わけのけりもわらさあがの

うきくふねりささくさ
くはかたやあかりはさの
ひと月松あがなもいも浦
のたさあつ氷のさあられ
くはくわくわのさ
めんさあつ事のは

甲子
乙未

よりの作をー

てふとふとあり

非へ女ちくー

らんーのくもさのく

の時我をわつれてかにとらん

ーとさうぬちー

それこそきくがれ

ーとくかー

かう死世のふと

名をばさぬあけの

ーとさうぬちー

あはれ

かきくしんまふくをきん
かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

かきくしんまふくをきん

原氏共養

茶のついで

東の風きこしてあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん

あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん
あつめんあつめんあつめん

原氏供養

海のりのりくく我もう海
まらんもらんをれれのうんこの
りや 地 外 廿 やわくハ林
ひりき 日 タへん 下 けりり
わさうかのあひあひのうけぶ
あまらわさなぬらさあか

うんせや 下 かり 下 かり 下 かり
ふく 下 かり 下 かり 下 かり
かのり 下 かり 下 かり 下 かり
はせ 下 かり 下 かり 下 かり
の抽 下 かり 下 かり 下 かり
せや 下 かり 下 かり 下 かり

原氏供養

十五卷

かぶるうへにちりひうかへん
ゆめのうきうをゆめのあひさ
のしくもかちりく

此本者以觀世左近入道章句
寫之并秘密之相子念附之且
往く亦板開之本假名使誤と
不少今改正者也昔

寛永十年癸酉二月吉日



